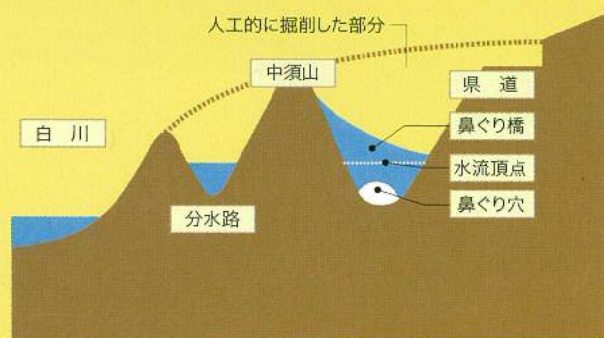


ばばぐすいで はな ちょうさ
馬場楠井手の鼻ぐりを調査してみると…

しょうわ ねん まち ぶんかざい してい ばばぐすいで はな いま かく
 昭和54年に町の文化財に指定された「馬場楠井手の鼻ぐり」は、今まで確
 認や調査がされていなかったの、わからないところやなぞがたくさんあ
 りましたが、平成23～27年に、「鼻ぐりの川底」などの発掘調査をしました。

しらべてわかったことは？

はな かわそこ はつくちようさ ねんどしつ すな こうご う じんこうてき そう かく
 鼻ぐり川底の発掘調査で粘土質と砂が交互に埋まった人工的な層が確
 認されました。これは水が流れやすいように、ななめにするために人がつ
 くれたと考えられます。鼻ぐりの穴の高さは、およそ2メートルと計測されま
 した。壁や川の底は、タガネやツルハシなどで掘ったあとがはっきり残ってい
 て、壁や底の境は直角に、底は平らに調整されていました。鼻ぐり橋につい
 ては、上の面を階段のようにつくり出して「中須山」に登れる形となっている
 のがほとんどなので、この中須山を作業する道にしていたと考えられます。
 これからは、専門家の意見をともに馬場楠井手の研究を行い、菊陽町の観
 光資源、学術資料などとして有効に活用していくところです。



ばばぐすいで はな
馬場楠井手の鼻ぐりはどこにあるの？



問い合わせ先
菊陽町教育委員会生涯学習課
 菊池郡菊陽町久保田2598番地(中央公民館内)
 TEL.096-232-4917

ガイド依頼
菊陽町ボランティアガイドの会
 菊池郡菊陽町曲手498番地3(南部町民センター内)
 TEL.096-292-3200(要予約)

管理
馬場楠堰土地改良区
 熊本市東区石原1丁目2-26
 TEL.096-374-8188

ねんまえ いま のうぎよう とぼく しせつ
400年前から今もつづく農業土木施設

**「ばばぐすいでの
 はなぐり」**



サウス君
 (菊陽南小マスコットキャラクター)



きくようまち きよういくいんかい
菊陽町教育委員会

「しばくぐすいでのしばぐり」

1 馬場楠井手ってなに？

きくようまちばくす しらかわしゆすいこう くまもとし おおえとろく やく いで じん
 菊陽町馬場楠の白川取水口から熊本市の大江渡鹿まで約12kmの井手(人工的に作られた水路)で、今でもしっかり管理されて、176ヘクタールの田畑に水を供給しています。造られたときの記録は残されていませんが、加藤清正が肥後統治時代(慶長13年(1608年)ごろ)に築造されたと伝えられています。

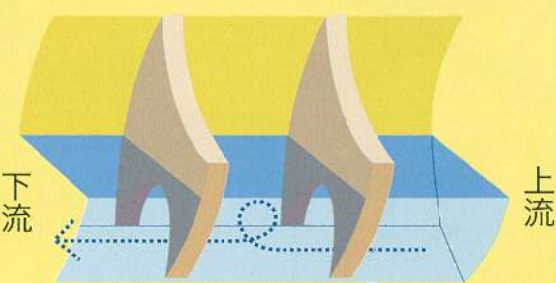


鼻ぐり井手の図(「勝国治水叢」の図を明治期に複製したもの)



2 鼻ぐりってなに？

はな いわやま ぶぶんてき うえぶぶん はし
 鼻ぐりとは、岩山を部分的にくりぬき、上部分を橋のように残して造られた、めずらしい構造物です。馬場楠井手の390m区間にあり、昔は80箇所ほどあったようですが、今は24箇所を残すのみとなっています。水の力を利用して溜まった土砂を排出させる仕組みとされ、この穴の形が牛の鼻輪を通す穴(もしくは鼻輪本体)に似ているところから「鼻ぐり」と言われるようになった理由とされています。



←「鼻ぐり大橋」の下部分→



馬場楠井手の鼻ぐり オルソ平面図
 0 5 10 15 20m

3 井手が完成する前と後の田んぼの面積を比べると

い で かんせい まえ あと
 工事が完成し、延長12kmにも及ぶ水路が引かれると、9か村(当時)、約95町(約95ヘクタール)にもおよぶ農地に水が行き渡り、それまでの約3倍の収穫量をあげたそうです。この地域では32年間の間に「畑」が「田んぼ」に変わり、お米が作られる水田の面積が約25倍と大幅に増加しています。



こんなにひろい地域で役立っている

4 分水路はどんなやくわり？

はな きたがわ なかすやま ぶんすいる い
 鼻ぐりの北側には中須山をはさんで「分水路」と言われる、もう1本の水路が並行して流れており、再び下流で合流しています。田畑へ供給する水が不足する時は分水路も使うことで水の通量を増やし、大雨で増水した時は「吐(はき)」と呼ばれる排水口から水を白川へ落とし、下流の田畑を水害から守ります。

